

中央大学杉並高校国語科 一般入試の出題方針

～受験生の皆さんへ 国語科からのメッセージ～

本校の国語入試は、小学校や中学校で学習してきた「日本語の運用能力」がどのくらい定着しているか、またその力をどのくらい生かすことができているかを様々な角度から見ることを目的としています。

日本語の運用能力」とは、日常生活の中で「ことば」と意識的に向き合うことで磨かれ高められてゆくものだと私たちは考えています。先生・家族・友達等の話しやニュースのことばに関心を持って考察したり、読書を積極的に行ったり、文章中の情報を順序立てて整理したり、自分の考えを文章でわかりやすく的確にまとめたりする、そのような学習に積極的に取り組む「日本語の運用能力」を日々高められる人に、本校で活躍してほしいと願っています。

さて、二〇一八年度の入試問題の構成は、以下のように予定しています。

○漢字の読み書き：新聞等でよく目にする時事用語や、中学生の間に読んでほしい書物などから出題します。

「ニュースに関心を持っていますか？」読書はしていますか？」というメッセージを込めています。

○古文読解：古文または漢文の内容読解について出題します。古典文法の知識のみを問うことはしません。大まかな内容把握ができる力を問います。

○長文読解：現代文(説明的文章もしくは文学的文章)の内容読解について出題します。情報を適切に取捨選択する力、論理展開を正確に把握する力、総合的に解釈する力を問います。

○要約：八〇〇字程度の文章を一〇〇字程度に要約する問題を出題します。ここでは文章中から必要な情報を正確に抜き出し、筋が通るようにまとめる力を問います。本校では高校三年次に、全員が卒業論文を執筆します。論文作成には膨大な数の文献から必要な資料を探す力、的確なことを選び筋道を立てて文章を作る力が必要です。入試でもそれらの力に関連する要約の問題を出します。

【要約文作成のポイント】

みなさんは「要約文」を書いたことがありますか。「要約文」とは「文章の論旨をまとめて短く言い表した文」のことを言います。ただ短くすればいい、ということではありません。

簡単な文章で、手順をわかりやすく説明してみました。ぜひ取り組んでみてください。

問 次の文章を八十字以上百字以内で要約しなさい。

ヤドカリの仲間で、珊瑚礁に多いソメンヤドカリは、貝殻にイソギンチャクを付けて歩き回っています。たいてい二つから四つのイソギンチャクを付けていますが、中には九つものイソギンチャクをつけたヤドカリの例も記録されています。

ヤドカリがイソギンチャクを付けている理由を調べるために、おなかをすかせたタコのいる水槽に、イソギンチャクを付けていないヤドカリを放しました。タコはヤドカリが好物なので、長い足ですぐヤドカリを捕まえ、貝殻をかみ砕いて食べてしまいます。

次に、イソギンチャクを付けているヤドカリを入れてみます。タコは、ヤドカリを捕らえようとしてしきりに足を伸ばしますが、イソギンチャクに触れそうになると、慌てて足を引っ込めてしまいます。ヤドカリが近づくと、タコは後ずさりしたり、水槽の中を逃げ回ったりします。

イソギンチャクの触手は、何かが触れると針が飛び出す仕組みになっています。その針で、魚やエビをしびれさせて、餌にするのです。タコや魚はこのことをよく知っていて、イソギンチャクに近づこうとはしません。それで、ヤドカリは、イソギンチャクを自分の貝殻に付けることで、敵から身を守ることができなのです。

イソギンチャクの方は、ヤドカリの貝殻につくことによつてどんな利益があるのでしょうか。ヤドカリに付いていないベニヒモイソギンチャクは、ほとんど動きません。ですから、餌になる魚やエビが近くにやってくるのを待つしかありません。その結果、餌を取る機会も増えずし、ときには、ヤドカリの食べ残しをもらうこともできるのです。

珊瑚礁の美しい海では、いくつものベニヒモイソギンチャクを貝殻に付けた、ソメンヤドカリを見ることが出来ます。ヤドカリとイソギンチャクは、このように、互いに助け合って生きているのです。

(東京書籍『新編 新しい国語 4上』「ヤドカリとイソギンチャク」を説明用に短く書き換えてあります。)

まず、各形式段落で「何が述べられているか」をまとめてみましょう。

- ①段落 ヤドカリはインギンチャクを付けている。
- ②段落 インギンチャクを付けていないヤドカリは、タコに食べられてしまう。
- ③段落 インギンチャクを付けているヤドカリは、タコに食べられない。
- ④段落 ヤドカリはインギンチャクを付けて敵から身を守る。
- ⑤段落 インギンチャクはヤドカリに付けて餌を得る機会を増やす。
- ⑥段落 ヤドカリとインギンチャクは互いに助け合って生きている。

この文章で、どの形式段落が最も重要だと思いますか。それは⑥段落です。ここが筆者の主張した結論です。でも、⑥段落だけではとても **八十字以上百字以内** という条件には合いません。

その次に考えなければならぬのはヤドカリとインギンチャクは互いに助け合って生きている」という結論を導き出すことのできる内容はどれか、ということですが。すると、④段落のヤドカリはインギンチャクを付けて敵から身を守る」と⑤段落の オソギンチャクはヤドカリに付けて餌を得る機会を増やす」ですね。これを論理展開が明確になるように接続詞等を用いて表すと、次のようになります。

【正答例】

ヤドカリはインギンチャクを自分の貝殻に付けることで、敵から身を守る。一方、インギンチャクの方は、移動が可能になり、餌を取る機会が増える。このように両者は互いに助け合って生きているのである。(九十四字)

参考までに、誤答例も挙げます。

【誤答例】

例1 ヤドカリはインギンチャクをつけているとタコに襲われない。

… タコは実験のために使用されただけで、ここでタコを取り上げるのは不適切です。

例2 インギンチャクはヤドカリについて移動をすることが出来る。

… 移動」だけでは、インギンチャクにとつてのメリットが何なのか分かりません。

例3 ヤドカリはインギンチャクによって身を守ることが出来るし、インギンチャクはヤドカリについて餌を取る機会が増え、ヤドカリの食べ残しをもらうことが出来る。

… そもそもヤドカリはインギンチャクを付けている」という前提がありません。

以上のことを参考にして、要約文作成の練習をしてみてください。文章を正確に読み、その内容を的確にまとめる力を身につけましょう。